

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農業研究費

事業名 中山間農業研究所県単試験調査費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 中山間農業研究所 電話番号：0577-73-2029

E-mail：c24402@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 9,845 千円 (前年度予算額：11,219 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	11,219	0	0	0	809	0	7,889	0	2,521
要求額	9,845	0	0	0	1,142	0	5,865	0	2,838
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

県民の生命と健康を守り、環境保全に貢献する魅力ある産業として、中山間地農業を維持・発展させるため、生産現場から寄せられる短期的あるいは緊急的なニーズに的確に応えた研究開発を行う。

(2) 事業内容

(継続して取り組む研究課題)

- ①中山間地域の新たな花きブランドの開発
- ②クリにおける凍害発生要因の解明と対策技術の開発 (外資)
- ③水稻の多様なニーズに応えるオリジナル新品種育成
- ④モモ、リンゴ等の生産安定技術開発と品種選定
- ⑤クリ産地維持・拡大に向けた新品種育成および安定生産技術の開発 (一部外資)
- ⑥夏ほうれんそうにおける化学農薬のリスク換算を考慮した萎凋病防除基礎研究
(新規に取り組む研究課題)
- ①中山間地域における果菜類の安定生産・コスト低減技術の開発
- ②施設栽培葉菜類の農薬使用量低減に向けた代替技術の開発 (外資)
- ③クリ収穫作業の機械化体系の確立に関する研究 (外資)

(3) 県負担・補助率の考え方

—

(4) 類似事業の有無

—

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	914	現地調査、研究に関する協議等
需用費	5,610	栽培資材、調査器具、資材等消耗品の購入、農機具燃料費等
役員費	130	電話代等の通信運搬費及び検査手数料等
委託料	800	果樹園の施設改修に係る委託料等
使用料及び賃借料	215	機械の借り上げ料等
備品購入費	2,050	機械器具の購入
負担金、補助金等	126	専門学会への参加費等
合計	9,845	

決定額の考え方

--

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

ぎふ農業・農村基本計画（令和3～7年度）

第6章 将来像達成に向けた取り組み

1 基本方針ごとの重点施策と主な取り組み

(3) ぎふ農畜水産物のブランド展開

⑦ブランド展開を支える新品目の創出と生産流通技術の開発

2 中山間地域を守り育てる対策

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

本県中山間地農業の生産現場において解決すべき問題のうち、主として短期的あるいは緊急的に解決すべき課題について研究を行い、成果を迅速に普及することで中山間地農業の生産性、ブランド力等の向上を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R)	達成率
						達成率
技術移転の推進	—	8	9	9	9	100%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和 3 年度	作物、野菜、花き、果樹分野の継続7課題に加え、野菜分野で新規に1課題の研究開発に取り組んだ。その中で得られた成果を研究所ニュース、中間・成果検討会、現地の研修会等で情報発信した。また、鉢花の新品種2件（シクラメン、アキギリ）を品種登録申請した。
令和 4 年度	作物、野菜、花き、果樹分野の継続5課題に加え、新規に作物分野で1課題、果樹分野で2課題の研究開発に取り組んだ。その中で得られた成果を研究所ニュース、中間・成果検討会、現地の研修会等で情報発信した。また、新たに開発した6つの技術（品種）について技術移転した。
指標① 目標：8 実績：8 達成率：100%	
令和 5 年度	令和7年度当初予算にて追加
指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%	

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない 	
(評価) 3	産地間競争の激化、諸資材の高騰など、産地を取り巻く情勢が厳しさを増す中で、地域(農業生産現場)に密着した問題解決型の研究は年々必要性が高まっている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない 	
(評価) 3	目標通りの研究課題に取り組み、6つの技術移転を行い期待以上の成果を挙げられた。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている 	
(評価) 1	限られた人員、予算の中、目標どおりの成果が得られるよう職員間で協力を分担し実施するとともに、関係機関、現地生産者と連携し現地試験を行い効率的な研究推進に努めている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 現場で使える成果を上げるためには、現場ニーズを的確にとらえ課題化し、明確な研究計画のもと継続して実施していく必要がある。

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 中山間地域の農業現場は、気候変動、経済情勢等の影響から様々な課題が発生し、その情報収集と迅速な対応が求められている。このため、農業者、指導機関、行政との連携を密にし情報共有を図るとともに、研究課題として積極的に取り上げ、得られた成果は迅速な技術移転に努めていく。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由 や期待する効果 など	